「朽ちる食べ物と永遠の命に至る食べ物」
（ヨハネによる福音書 6：24−35）

五千人にパンを与えた主イエスは、カファルナウムへ移動しました。パンを食べた群衆は、主イエスを追ってきました。主イエスはその群衆に向かって言いました。
「はっきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満足したからだ。」
群衆が主イエスを捜したのは、奇跡を通して欲求が満たされたからであり、「しるしを見た」からではありませんでした。さらに主イエスは言われます。
「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。」
群衆は朽ちる食べ物、地上のパンに囚われていたために、主イエスを通して示された「しるし」を見ることができませんでした。しるしは神の国、命の世界がどのようなものかを示します。しかし、自分の思いや見方に囚われていてはそれが見えません。群衆に悪意はありませんでしたが、結局群衆は、永遠の命のパンを与える主イエスを、地上のパンを与えてくれるだけの存在へと引き下ろしてしまっていたのです。
自らの思いや見方から解放され、しるしを見ることを主イエスは求めています。五千人にパンが与えられた出来事には、神の恵みが溢れています。ここに神の国を見、主イエスがその世界を示すためにこの世に来られた方であることを信じることから、わたしたちはまことの命のパンをいただくことができます。